



# 海洋システム科通信 8月号

## 手作りの技術

(カキ養殖実習 採苗器づくり)



海洋科学コースの2年生が、カキ養殖実習に向けて海にいるカキの幼生を採取するための道具、“採苗器”を手作りし、海の生き物や養殖の技術について学んだ！

## 社会人になるために

(インターンシップ事前ガイダンス)



ジョフカフェ気仙の吉田英夫さんをお招きして、インターンシップの事前ガイダンスを行った！海洋システム科の2年生が参加し、インターンシップの目的や社会人としての心構えや態度、礼儀などを学んだ！

今旬  
岩手魚



# フッシー

## 環境に良い浮き球

(総合的な探究の時間 環境チーム)



海洋システム科の2年生が総合的な探究の時間を使って、浮き球ストラップを作ったぞ！完成したストラップは校外に向けて販売し、地域環境の改善に繋がる活動へ発展させていく予定だ！

## 先生の独り言 vol.5

## 「最強のボクサー」

最近、日本人のボクサーが熱い。プロボクシングでは、井上尚弥選手がWBSSで優勝を果たし、先日行われた東京オリンピックでは、入江聖奈選手が世界中の名だたる強豪を抑えて金メダルに輝いた。テレビや新聞だけでなく、ネット上でもこの二人の偉業が取り上げられ、「最強は誰か？」などの議論で持ちきりである。確かに、井上選手も入江選手も優れたボクサーである。しかし、“最強”は海のボクサーかもしれない。

そのボクサーの名は、「モンハナシャコ」。エビやカニなどの仲間、補脚(ほきやく)と呼ばれる、ボクシンググローブのような手を持つ。この補脚から放たれるパンチがすごい。パンチのスピードは時速



海で最強のボクサー  
モンハナシャコ  
80km。これはプロボクサーの2倍以上のスピードだ。威力は150kg。仮に成人男性と同じ、体重60kgの体格を持っていたならば、ビルからトラックを落としたのと同じぐらいのパワーとなる。

る。海で最強のボクサーはモンハナシャコで間違いないだろう。しかし、地球で最強かどうかは議論の余地がある。というのも、陸上では、シャコパンチは水中の10分の1まで弱くなってしまう。これは、水に比べて抵抗の少ない空気中では、パンチの威力が強すぎて腕が壊れてしまうため、シャコ自身が意図的に力を抑えているからだと言われている。

モンハナシャコは餌を捕まえる時や天敵から身を守る時にパンチを打つ。パンチに“命をかけている”という点では、井上選手や入江選手と同じである。仮にモンハナシャコが人と同じ大きさだった場合を想像すると、人間のボクシング界でどこまで通用するのか？どのようなドラマを見せてくれるのか？興味が見てくれるのか？興味が見てくれるのか？興味が見てくれるのか？

